

カナダの自然保護

菊池 徹



バンクーバー市の中心ビジネス街のすぐそばにスタンレーパークと云う美しい大きい公園があります。自然林を基礎に造り上げられた、素晴らしい公園です。バンクーバー市民はこの公園をこよなく愛しています。その公園の中心を串ぎしにするようにフリーウェイが走っています。その北端がライオンズゲートブリッジと呼ばれる吊橋につながっており、その北岸のベッタウソンの要路となっているのです。世界中の都会がどこでもそうである

様に、バンクーバーも人口増加の一途をたどり、車の数と交通量の増大に悩まされ続けているのです。そして、前記ライオンズゲートブリッジは二十年も前から朝夕のラッシュユが大変で毎年の様に橋幅の拡大や、平行橋の設置が討議されるのです。ところが、いつも「否決」されるのです。その理由は「車の数が増えると、スタンレーパークをスポイルする」と云うのです。もう一つの話。かつてバンクーバーへの冬季オリンピック誘致が検討されたことがあります。委員が世界各地の調査に出掛けました。丁度その時、札幌で冬季オリンピックが開かれていました。帰って来た委員の報告は、「札幌の様に近郊の山が荒されるのなら、オリンピックの誘致には賛成出来ない。」と。

そして、本当にオリンピックはカリガリーで開かれることになってしまいました。日本から見れば自然が一パイあるカナダなのですが、カナダの人達が自然を大切にすゝる気持と行為は大変なものになります。私はカナダに定住して二十余年に接して来ました。その自然は雄大で誠に美しいものです。とは云へ、部分的ではあります。人間の開発力によって、少しづつ破壊されて行くのです。その場合、そうした破壊された

ものを修理しなければならぬのです。この補修哲学が白人と日本人とは平均的に可成り異なる様に思います。

「南極物語」と云う映画をご記憶でしょうか？ タローとジローの物語りです。舞台は南極ですが、ロケーションは主としてカナダ北極で行われました。三十年前の昭和基地に似せた大きいセットが建てられました。撮影が終了あとそのセットは完全に取りこわれ、もとの自然の状態に復元されたことは云うまでもありません。そうしなければセット建設は許可にならないのです。

北極圏での鉱山の開発でも同じです。開発という作業は自然を破壊して行くものです。自然の破壊なしに開発は行われません。この際どうしても必要なのは開発破壊後の補修復元作業であります。開発と云うことは、この補修復元を終えて始めて完成するものであると云う哲学を持たなければなりません。森林を切れば、必ず植林する。魚を獲ればその量の復元を待つ。道路をつける時には、風致をけがさない様につける。……この様な考え方が基本的には大切なのであります。そればかりではありません。自然風致を整理整頓しなければなりません。例えば道路をつけた場合、作業によって生じた汚いものを取りかたづけ始めて作業完成するのですが、日本の道路側にはしば

しば汚いものが放置されていることがあります。カナダのハイウェイを走る時、どんな田舎を走っても道路側が極めてきれいに整頓されているのに気がつくでしょう。

菊池 徹（きくち とおる）

一九二二年兵庫県に生る。北大理学部卒。地質調査所勤務。理学博士。一九五七―五八年南極第一次越冬隊員として、タロ・ジロの大ゾリ担当。映画「南極物語」のモデル。後カナダに移住し、現在国際経営コンサルタント自営。日加の間を往復している。